

2023年8月30日

## 2030年国際博覧会の釜山招致実現に向けた支援に関する要望

(一社)九州経済連合会 会長 倉富 純男  
九州商工会議所連合会 会長 谷川 浩道  
九州経済同友会 代表委員 青柳 俊彦  
九州経営者協会 会長 倉富 純男  
(一財)九州オープンイノベーションセンター  
会長 瓜生 道明  
(公財)九州経済調査協会 理事長 縄田 真澄

2030年に開催される国際博覧会（登録博覧会）に、韓国・釜山市が候補地として名乗りをあげている。釜山市以外にも、リヤド（サウジアラビア）とローマ（イタリア）が立候補し、3都市による競合が見込まれる中、釜山市は「世界の大転換、より良い未来に向けた航海」「自然と持続可能な暮らし」「人類のための技術」「共有と思いやりの場」を博覧会のテーマに掲げ、「BUSAN is Ready」を合言葉に、韓国政府および釜山市による国を挙げての招致活動を展開している。

アジア諸国に最も近い九州においては、古来よりアジアに開かれたゲートウェイとして人と物の交流が活発に行われてきた。現在も九州と韓国の間では日本のどの地域よりも民間の交流や地方自治体間の交流が盛んに行われている。具体的には、九州経済連合会と韓日経済協会との間の「九州・韓国経済協力会議」や、福岡と釜山の両都市の財界、言論界、学界、医療界、法曹界など各界のリーダーで構成される民間提言会議体「釜山－福岡フォーラム」の開催など、その結びつきは強固なものとなっている。

2030年国際博覧会の釜山市への招致が実現すれば、韓国国内にとどまらず、釜山の一円交流圏である九州にとっても、博覧会開催期間中やその後の相互の交流人口の拡大が見込まれるなど、日韓双方の経済界にとって大変メリットがある国際イベントとなる。については、九州の経済界として一丸となって釜山市への招致実現を応援することとしたい。

政府におかれては、2030年の国際博覧会の開催地が韓国・釜山市となるよう、最大限の支援を是非とも行われたい。